

**2026年度学力試験問題の  
「出題意図」・「解答例又は評価ポイント」について**

**数 学 【昼間コース 一般選抜：前期日程】**

大学入学共通テストではみることができない、問題解決にいたるプロセスをみることに主眼を置いている。ただし、記述式文章題のみではバランスを欠く恐れがあるので、穴埋め問題も配置している。

	出題意図	解答例又は評価ポイント
I 第一群・第二群 共通	ベクトル、対数関数、数列などに関する基礎的能力および応用力をみる。	(解答例) (a) $\left(\frac{1}{3}, \frac{2}{3}, -\frac{1}{3}\right)$ (b) $\left(\frac{11}{4}, \frac{1}{2}\right)$ (c) 3037
II 第一群・第二群 共通	積分法に関する基礎的能力および応用力をみる。	(評価ポイント) 与えられた関数のグラフを図示するなどにより、求める面積を積分で表すことができるかをみた。また、その積分を正しく計算できるかをみた。
III 第一群・第二群 共通	三角関数、積分法、確率などに関する基礎的能力および応用力をみる。	(解答例) (ア) $\sqrt{2} - 1$ (イ) $-3x^2 + 2x$ (ウ) $\frac{5}{81}$

	出題意図	解答例又は評価ポイント
IV 第一群	解と係数の関係、整数の性質などに関する基礎的能力および応用力をみる。	(評価ポイント) (1) 解と係数の関係を用いて、 $\alpha + \beta$ および $\alpha\beta$ を $n$ の式で表すことができるかをみた。また、これらの関係式から $\alpha$ が整数ならば $\beta$ も整数となることが説明できるかをみた。 (2) (1)の結果から $n$ を消去することにより、 $\alpha$ と $\beta$ の間に成り立つ関係式を求められるかをみた。 (3) (2)の結果や整数の性質などを使うことにより、 $\alpha$ が整数となるような $n$ を求められるかをみた。
V 第二群	極限および微分法に関する基礎的能力および応用力をみる。	(評価ポイント) (1) 導関数を正しく計算できるかをみた。 (2) 極限を正しく計算できるかをみた。 (3) (1)、(2)の結果を用いて、増減表およびグラフの概形がかけるかをみた。

※ 問題 II、IV、V については、結論に至る過程や途中計算を書く必要がある。結論が合っても思考過程や途中計算が正しいと判断できない場合、正解とならないことがある。また、上記問題については、想定している解答の一つに対して出題意図、評価ポイントを述べた。